



彼杵小学校だより NO. 9
「強く 正しく 朗らかに」



平成30年6月21日
東彼杵町立彼杵小学校
TEL 0957-46-0038
(文責 校長 原 源吾)

〈ホームページ〉 <http://www.kyoui.higashisonogi.jp/sonogi-syo/>

TOPIC

～水の季節到来！！～

6月と言えば「水」の季節。旧暦では6月のことを「水無月(みなづき)」と言いますね。この水無月ですが、本来は新暦に換算すると6月下旬から8月上旬にあたるそうです。水無月の「無」は「(水が) 無い」ということではなく、助詞で「～の」の意味になり、「水無月」＝「水の月」となるそうです。梅雨明けの時期なので、どの田んぼにも水が多くあるという説が有力のようです。

さて、彼杵小でも、水の季節がやってきました。学習や諸行事を通して、水のありがたさや大切さについても学んでいきます。

先月24日(木)に籾蒔きをして約3週間がたちました。籾は見事に成長し、長さ約15～20センチになりました。そこで今月15日、三根郷の森さん、彼杵宿郷の田中さん、JAの営農指導員さん等をゲストティーチャーとして、またたくさんの保護者の皆様にご協力をいただき、5年児童が田植えを行いました。初めて田植えをした児童が多く、独特の土の感触に歓声をあげていました。この田植えは、総合的な学習の時間の一環として行っています。米作りを通して、労働の意味や大切さ、命のありがたさ等について学んでいきます。



梅雨真っ盛りの19日、プール開きを行いました。泳ぎ初めは6年生です。シーズン始めにしては、水温が高く(27℃)、とても気持ちよさそうに初泳ぎを楽しんでいました。ルールやマナーを守って、楽しい水泳学習にしてほしいものです。



※全校集会で紹介した話です。これも水に関係があります。

「川を渡るアリ」

エジプトにナイル川という世界一長い川があります。長さは約6700km、北海道の端から九州の端までよりも長い大きな川で、川幅は狭いところで500m、広いところでは50～60kmもあります。この川を泳げないはずのアリが渡るのだそうです。では、どうやって川を渡るのでしょうか。まず、彼らは互いが離れないようにつながり、サッカーボールぐらいの大きなボールのようなかたまりを作ります。その時3分の1は水面から出ていますが、残りは水の中です。このままでは残りの3分の2、つまり2000匹は死んでしまいます。

そこで流されていく途中で、水面上のアリは次第に水中に入り、そのかわり水中にいたアリが水面上に浮かび上がります。しばらくの間は水の中にも大丈夫ですから、このように交代しながらもぐったり、水面上に浮かんで息をしたりします。このようにして3,000匹のアリたちは、あの大きな川を移動してしまうのです。もし、わがままのアリがいて、ずっと水面上に居続けたら水の中にいるアリたちは死んでしまいますし、水面上にいたアリたちもやがて水の中に沈み全滅するでしょう。まさに「がまん」と「協力」によって川を渡っていくのです。



がまんと協力は、私たち人間にとっても、大切なことですね。今年の彼杵小学校のキーワードは、「がまん」と「聴く」です。「がまん」してほしいことは、特に「学習・掃除・テレビ(ゲーム)」の3つです。「聴く」は「聞く」と違って、「耳・目・心を使って先生や友達の話をきくこと」です。これからも「がまん」と「聴く」を忘れず学校生活をがんばりましょう。

※裏面はありません。